

# 甲賀市の文化財③

飯道寺山伏と熊野信仰

甲賀の霊峰「飯道寺」は、人の心を押さえて離さない聖地です。

この飯道山には、近世、醍醐三寶院を法頭とする全国に十二箇所しかない当山派正大先達寺院、岩本院と梅本院が大きな勢力をもっていました。

この二院は、全国に多くの同行山伏をかかえ、勧進活動や各地の霊山の先達を行方など、全国に活動の痕跡を残しています。

紀州熊野にある本宮・新宮・那智の熊野三山は、平安末期頃より極楽往生を求め、上皇や貴族たちによって「蟻の熊野詣」と称されるほどに多くの参詣を集めます。

その熊野には、三山の社堂の造営や修理を行うため、浄財を募る本願と呼ばれる勧進元が置かれ、熊野本願九ヶ寺中、熊野新宮の本願庵主として頭角を現していくのが、ほかならぬ飯道寺梅本院の先達たちでした。

新宮庵主家に伝わる『熊野年代記古写』によれば、天文11年（一五四二）、水本坊祐盛が新宮の鳥居を建てたとあり、同18年には祐盛は新宮本願庵主になります。

続く永禄年間には、飯道寺梅本院の行鎮が庵主となり、梅本院先達の新宮庵主入りが確認され、その後、代々新宮庵主は梅本院が世

襲し、行春、行尊、行算、行家、行盛、周純と16世紀末期より18世紀初期の一世紀半に亘って新宮庵主として君臨し続けます。

熊野新宮での梅本院の活動の様子は、梅本家に伝わる『熊野新宮本願庵主文書』によって知ることが出来ます。

おそらく熊野新宮の本願庵主は、全国に熊野信仰を伝える熊野山伏や比丘尼たちを動かし、熊野参詣へと導く大きな役割を果たしていたのでしよう。

飯道寺から熊野の地に赴いた彼らの足跡は、飯道山に鎮座する飯道神社の祭神として祭られる「速玉男命」に象徴されているのではないでしようか。

甲賀市史跡「飯道神社・飯道山遺跡」に秘められた歴史の数々。この大切な歴史遺産をいつまでも大切に守り続けていかなければなりません。

問い合わせ  
歴史文化財課 調査管理係  
☎ 86-8026  
FAX 86-8216

## 寺

院は神社とともに、地域社会のなかで大きな位置を占めてきました。江戸時代以降に整備

され、檀家の先祖供養と葬祭を行う檀那寺が身近ですが、檀家を持たず、村のために種々の祈禱をし、神社に接しその管理運営を行う神宮寺などの「祈願寺」には、神仏分離により廃寺となったものもありますが、その成立は檀那寺より古く、平安・鎌倉期の古像や、修正会に起源する年頭のオコナイなど、地域の歴史を語る有形無形の文化を伝えるところが少なくありません。

『市史』一巻で触れられたように、市域では「古寺」というべき寺院の多くは天台宗で、しかも宗祖最澄の開基とする伝承が広く行われています。もちろんそれは「由緒」ですが、そこに投影された歴史を考えることは、決して無益ではありません。今後の『市史』のなかでも、さまざまな角度から光を当てる予定です。

最澄開基と伝える樺野寺も祈願寺の一つ



## 市史の小径

第28回

甲賀の古社と「祈願寺」

### 『市史』書店で販売中

『市史』は次の書店でも販売しています。

- 水口 三寶堂書店〈アヤハプラザ〉
- 水口 ハタヤ書店〈平和堂〉
- 水口 山川書店〈平和堂〉
- 水口 山田書店〈平町〉
- 土山 ウエノ〈北土山〉
- 甲南 一番館〈アーバンぱる〉
- 信楽 谷川書店〈長野〉

購入・問い合わせ

歴史文化財課 市史編さん室  
(甲南庁舎3階)  
☎ 86-8075 FAX 86-8216